

造影【MRI】検査承諾書（同意書）

今回実施する検査は”ガドリニウム造影剤”という薬剤を体内に注入して行う検査です。造影剤を用いることにより、造影剤を使用しない場合よりも皆さまに必要な情報が得られる場合があります。造影剤を用いた検査を行う事で皆さまの診断・治療に役立つのはもちろんですが、副作用というリスクが生じる場合があります。このため造影検査が必要であるかどうかの判断は医師が行いますが、より安全に検査を行うために患者さまにも以下に記す事項についてご理解して検査に臨むようお願い致します。

ガドリニウム造影剤では稀に副作用が起こる事もあります。副作用の種類と頻度は次のようなものです。

- ① 軽い副作用：吐き気・動悸・頭痛・かゆみ・発疹などで、基本的に治療を要しません。このような副作用の発生する確率は2.4%で、100人につき3人以下の頻度です。
- ② 重い副作用：呼吸困難・意識障害・血圧低下などです。このような副作用は、通常は治療が必要で、後遺症が残る可能性があります。このため、入院や手術が必要な事もあります。このような副作用が発生する確率は0.0052%で、約1.9万人につき1人の頻度です。
- ③ 病状・体質によって約83万人につき1人、0.00012%で死亡することもあります。

注意事項

- 以前に造影剤を使用した検査で副作用がでた方、また喘息の既往のある方は上記の副作用の発生する確率が高く、重篤な副作用が生じる確率も高くなるとの報告があります。慎重な投与が必要になりますので、必ず問診票にその旨を記載してください。
- 腎機能が低下している、もしくは腎機能障害・肝障害・心疾患などの疾患を有している場合は、これらの合併症が増悪する可能性がありますので、検査後も注意して合併症が増悪していないかをチェックしてもらってください。
- 造影剤注入後からあくび・くしゃみ・咳・かゆみなどの異変を感じた場合は、検査中でも我慢しないで申し出てください。
- 発疹・発赤・じんま疹・悪心・嘔吐・血圧低下・頭痛等の副作用が遅発性に造影剤使用後1時間から数日後に現れることもありますので、この際は造影剤使用した旨を伝え、受診するようにしてください。
- 重篤な副作用の発生する確率は、非常に稀といえる数字ではありますが、100%安全な検査ではないことをご理解いただき、①のような異変を感じたら、迷わず受診し、主治医に適切な処置を行ってもらってください。

検査室において造影剤を注射するときの注意点

勢いよく造影剤を注入する為に、血管外に造影剤が漏れることがあります。この場合には、注射部位がはれて、痛みをとまなうこともあります。基本的には時間がたてば吸収されるので心配ありません。非常に稀ですが、漏れた量が非常に多い場合には、別の処置が必要となることもあります。

当院では万一の副作用に対して万全の体制を整えて検査を行っていますが、検査をできるだけ安全・確実に行う為にしっかりと別紙問診票にお答えいただくようお願い致します。

なにかご不明な点があればご連絡ください。大手前病院 放射線科 TEL06-6941-0484 内線(2320)

私は、現在の病状、造影検査について説明を受け納得致しましたので【MRI】造影検査を受けることに同意致します。

承諾日 年 月 日 (*自筆署名又は記名押印)

患者様氏名 署名

未成年患者様の親権者又は代理人 (続柄) 署名

上記患者様に対し私が検査に関する説明を行い、同意されたことを確認しました。

依頼医 署名

同席職員 署名 (医師・看護師)